

会が開催されて約200件以上の報告がなされた。学問分野の性格上、人口に関連する報告は多かったが、直接関連するものは「人口統計」セッションで行われたほか、官庁統計等に関するセッションでも行われた。

「人口統計」

座長：杉野元亮（九州共立大学）

- 1 大久保正一（日本大学）「敗戦思春期世代の死因(2)」
- 2 大久保正一（日本大学）「敗戦思春期世代の死因(3)」
- 3 廣嶋清志（島根大学）「年齢別有配偶出生率の問題性」
- 4 伊藤 薫（岐阜聖徳学園大学）

「学生アルバイト就業者数のより正確な推計について - 国勢調査による過小推計の検討 - 」

「官庁統計の現状と課題(1)」

座長：會田雅人（総務省統計局）

- 5 小島 宏（国立社会保障・人口問題研究所）
- 「地方自治体の施策と統計指標 - 少子化対策の事例 - 」
- 6 西村善博（大分大学）「フランスのセンサス計画の動向」
- 7 濱砂敬郎（九州大学）

「ドイツにおける行政登録簿（Administrative Register）ベースの人口センサスについて」

「統計調査方法」

座長：美添泰人（青山学院大学）

- 1 山田 茂（国士舘大学）「住宅・世帯に関する統計調査の精度」

なお、2日午後の共通テーマ・セッション「官庁統計の現状と課題(2)」では招待講演が行われ、国際人口学会会員の Paul Cheung（シンガポール統計局長）と三浦由己（日本統計学会前会長、駿河台大学教授）の両氏が4人の講演者の半分を構成し、日本人口学会会員の伊藤彰彦氏が3人の討論者の1人を務めたが、内容は官庁統計全般に関するものであった。また、2002年大会は9月7日（土）～11日（水）に明星大学で開催されることになっている。（小島 宏記）

第11回日本家族社会学会大会

第11回日本家族社会学会大会は、立命館大学において9月8日（土）～9日（日）の両日開催された。初日は韓国家族学会会長・李東瑗氏（梨花女子大学教授）による特別講演のほか、「未成人の親子関係」、「夫婦関係」、「高齢者」、「ジェンダー」、「労働と階層」をテーマとした自由報告と、「家族社会学教育を考える」、「成人期への移行研究の課題 ポスト青年期とはいかなるステージか」、「家族と福祉」を取り上げたテーマセッションが行なわれた。第2日目は、「成人の親子関係」、「家族役割」、「出産と家族」、「家族病理」、「中国の家族」をテーマとした自由報告と、シンポジウム「21世紀の社会と家族の変化：パート 家族の変化と人間」が行なわれた。結婚や夫婦関係、親子関係といったテーマでは人口研究の観点からも興味深い報告がなされ、活発な議論が行なわれた。それらの報告を挙げると以下の通りである。

1. 未婚化・社会階層・経済変動 加藤彰彦（帝京大学）
2. 既婚女性の就業と社会的格差の趨勢 村上あかね（大阪大学）
3. 女性の基幹労働と就業継続に関する実証研究 総合職・基幹職女性調査から 森田美佐（奈良女子大学大学院）

4. 成人期への移行と家族研究 「同居」戦略と階層差 岩上真珠 (明星大学)
5. ライフコース分析を通してみた成人期への移行の歴史的变化
全国家族調査データの分析結果から 安藤由美 (琉球大学)
6. 夫婦の家事労働時間の規定要因分析 社会生活基本調査の個票データを用いて
松田茂樹・鈴木征 (株ライフデザイン研究所)
7. 配偶関係別自殺率の分析 石原明子・清水新二 (国立精神神経センター)
(守泉理恵記)

日本環境経済・政策学会2001年大会

「環境保全と企業経営」という統一テーマの下で、環境経済・政策学会(会長:佐和隆光・京都大学教授)の2001年大会(実行委員長:佐和隆光・京都大学教授,事務局長:植田和弘・京都大学教授)が2001年9月29日(土)~9月30日(日)の2日間にわたって京都市の国立京都国際会館で開かれた。今回は事実上の第6回の研究大会であり、初日の午前から2日目の午前にかけて16種類のテーマで27のセッションが行われたほか、「自由論題セッション」2つと「英語セッション」が行われた。また、「地球環境保全のための国際研究ネットワークの構築と展望」、「環境経営評価の現状と課題:内部評価と外部評価の接点を求めて」といった共催セッションやロシア連邦ドゥマ環境問題委員会副委員長による特別講演「ロシアにおける地球温暖化対策の現状と日本への期待」が開催されるとともに、2日目午後には朝日新聞社後援による市民シンポジウム「環境経営の革新-新産業革命とナチュラル・キャピタリズム」も開催された。

学会の性格上、人口に間接的に関連する報告は少なくなかったが、より直接的に関係するものは以下の4報告のみであった。

セッションF-1 「環境政策・制度の評価・比較(その1)」

座長:寺西俊一(一橋大学), 討論者:仲上健一(立命館アジア太平洋大学), 黒川哲志(帝塚大学)

- 6 人間開発と都市環境の役割:研究動向の展望と評価枠組み
野上裕生(日本貿易振興会アジア経済研究所)

セッションE-2 「アジア及び途上国の環境問題(その2)」

座長:松下和夫(地球環境戦略研究機関), 討論者:永田 信(東京大学), 森 晶寿(滋賀大学)

- 1 フィリピン都市における移動と健康リスク
小島 宏(国立社会保障・人口問題研究所)
- 4 フィリピン大都市における移動者と非移動者の行動パターンと交通手段の分析
阿部 彩(国立社会保障・人口問題研究所)

セッションE-3 「アジア及び途上国の環境問題(その3)」

座長:淡路剛久(立教大学), 討論者:李志東(長岡技術科学大学), 山下彰一(広島大学)

- 1 アジア・太平洋地域における都市環境改善戦略指標構築に関する研究
常杓・Shobhakar DHAKAL(地球環境戦略研究機関)/井村秀文(名古屋大学)

なお、2002年大会は9月28日(土)~29日(日)に北海道大学で行われることになっている。